

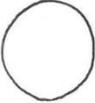


セルフチェックシート

(卒業生の自己分析を基に職員が作成しました。)

状況

方針の要約

	<p>対称面を切り出して、そこを座標に乗せる</p> <p>(1) 1つの面との切りは可成り出るので、もう1つを求める。平面直交ベクトル利用で目標をベクトルを伸ばして計算</p> <p>(2) 2つの点の間の切りを比べることで</p> <p>思いにより計算がハッピー。もう少し幾何で圧縮できるはず</p>
---	--

	<p>より具体的に考えれば、白から始まる順列と赤から始まる順列の数を比較して直接得られる。Pnを出さずに構造分解の途中で白スタートと赤スタートを別関数でおくしかない。あるいは <math>a_n + b_n = P_n</math> 及び <math>a_n + b_{n-1} = P_{n-1}</math> みたいな数列というわけでもない。bnの項間には1だけ差がある計算がある。問題解決も Pn 求値がなるとから根本的な方針を立てる。</p>
---	---

	<p>1. 2018年問題の解法を忘れたらどうする</p> <p><math>P(x, y)</math> 点</p> <p><math>Q(x, y), M(\cos\varphi, \sin\varphi)</math></p> <p><math>N(\cos\theta, \sin\theta)</math></p> <p><math>Q</math> は <math>OP</math> 上, <math>Q</math> は <math>MN</math> の中点</p>	<p><math>\therefore Y = \frac{2}{c} X, X = \frac{\cos\theta + \cos\varphi}{2}, Y = \frac{\sin\theta + \sin\varphi}{2}</math></p> <p>①</p> <p>②</p> <p>③</p> <p>④</p> <p><math>\rightarrow X = \frac{2}{c+\varphi}, Y = \frac{2}{c-\varphi}</math></p> <p>⑤</p> <p><math>Y=0 \text{ かつ } c=0 \text{ かつ } \varphi=0</math></p>
---	--	--